

2005年度中間決算と施策進捗

2005年11月10日

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることがあります。

《目次》

- 2005年度上期連結業績
- セグメント別上期業績
- 2005年度通期連結業績計画
- 中期経営計画目標
- 事業構造の变革と領域拡大
- 事業構造・業務構造变革の進捗

2005年度上期連結業績

(単位:億円)

	2004年度 上期実績	2005年度 上期実績	前年同期比 増減(%)	2005年度 上期計画 (2005.5.12)	計画比 増減(%)
売上高	808	845	4.6%	860	-1.7%
営業利益	17	41	145.9%	32	26.8%
売上比%	2.0%	4.8%	—	3.7%	—
当期利益	-13※1	39※2	—	24	62.7%

● 上期売上高は前年同期比37億円の増収。営業利益は前期比24億円の大幅な増益。

- 建設投資低迷の影響を受けビルシステム事業において売上げが前年同期比減少したものの、アドバンスオートメーション事業の伸長で増収。利益面では両事業とも増益。
- 上期計画に対して売上は未達だったものの、利益は計画値を上回って達成。

※1 : 特別損失として、確定拠出年金への移行に伴い適格退職年金制度終了損35億円を計上。

※2 : 特別損失として、減損損失3億円、本社移転・工場整備費用4億を計上。特別利益として、東京事業所の土地一部売却により27億を計上。

セグメント別上期業績

(単位:億円)

		2004年度 上期実績	2005年度 上期実績	前年同期比 増減(%)	2005年度 上期計画 (2005.5.12)	計画比 増減(%)
BS事業	売上高	346	331	-4.4%	360	-8.1%
	営業利益	5	6	17.4%	7	-20.0%
AA事業	売上高	392	449	14.5%	430	4.4%
	営業利益	18	38	113.4%	27	39.6%
その他事業 (新事業・関連事業)	売上高	78	74	-5.0%	81	-9.1%
	営業利益	-5	-3	—	-2	—
合計	売上高	808	845	4.6%	860	-1.7%
	営業利益	17	41	145.9%	32	26.8%

● ビルシステム事業

- 新設建物市場における投資低迷、低価格競争など厳しい市場環境の影響をうけ売上は減少を余儀なくされたものの、市場環境は首都圏を中心に回復基調にあり、受注は着実に増加（前年同期比較：04上467億円⇒05上518億円）。
- 既設建物市場はtemsを中心に前年同期比大きく伸長。サービス事業も堅調に推移。

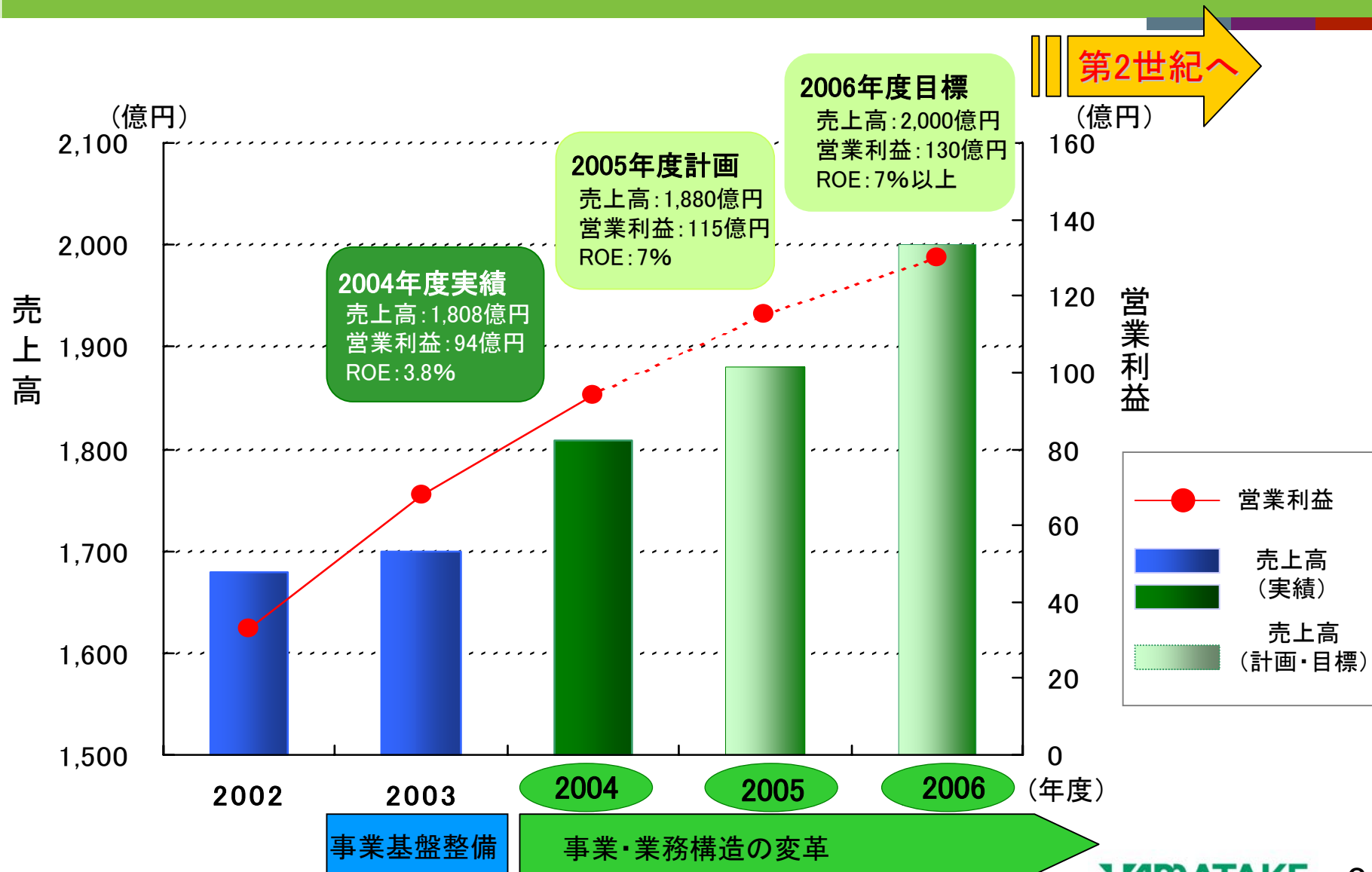
● アドバンスオートメーション事業

- 製造業全般で設備投資が堅調に推移しており、幅広い市場で増収を実現。収益改善の取り組みも奏功し増収・増益。
- 国際事業や独自技術を活かした周辺事業も着実に伸長。

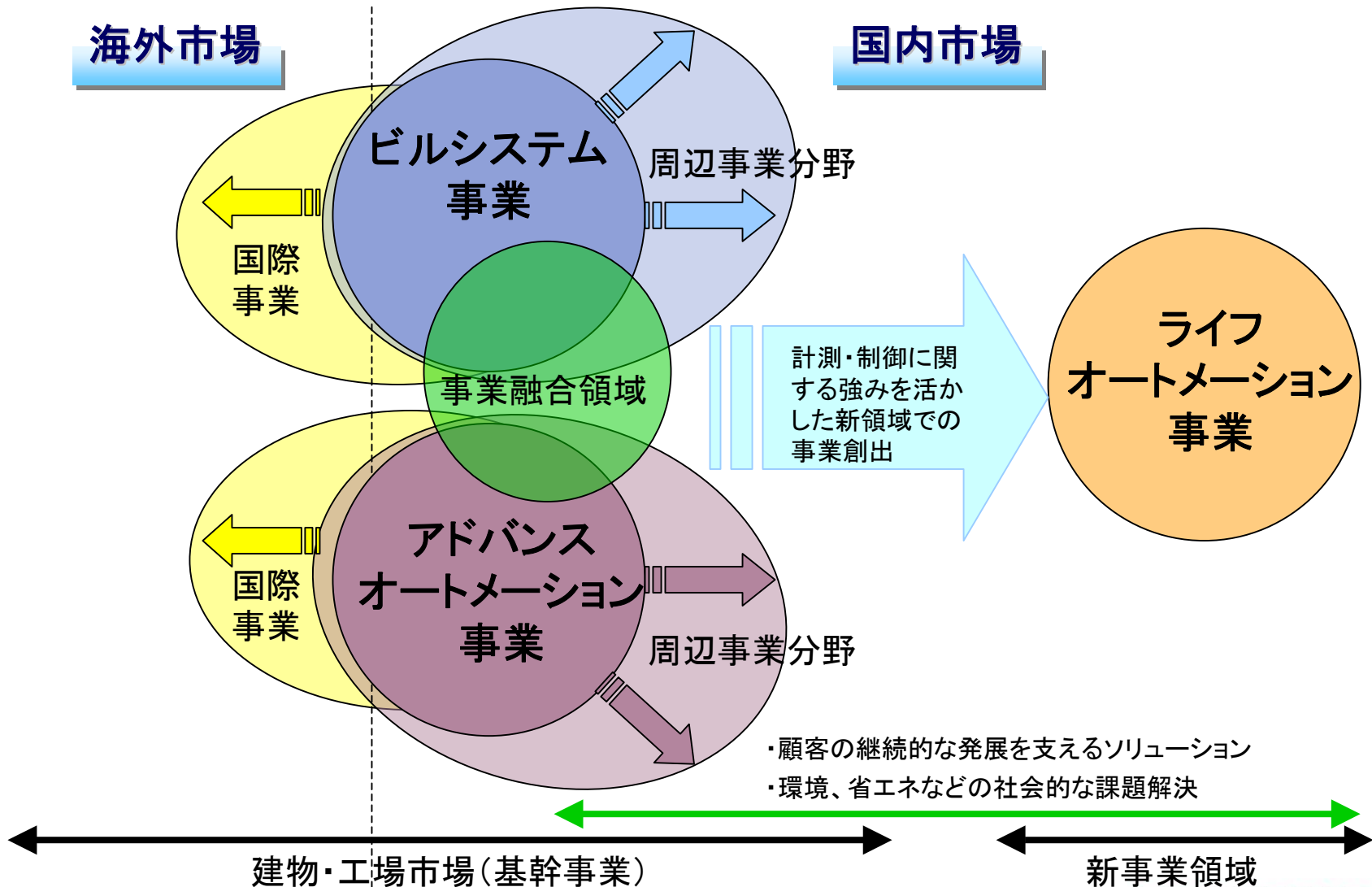
● その他・新事業

- 健康福祉事業の売上げは拡大したものの、検査・測定器等の販売や環境関連事業の売上げが減少。

中期経営計画目標



事業構造の変革と領域拡大



事業構造・業務構造変革の進捗

山武2世紀の成長基盤構築のための変革

～ 経営資源・機能の全体最適再配分～

事業構造変革

- ライフサイクルにわたる総合的ソリューション事業
 - － ESCO事業、省エネ支援サービス等
- 国内外におけるプロダクト事業拡大
- シナジーによる事業拡大・商品力強化
 - － 山武・テムテック研究所提携
- ライフオートメーション事業の創出・拡大
 - － 社会福祉事業基盤強化・拡大(拠点整備・グループホーム事業参入)
 - － 都市環境防災「浸水警告システム(河川洪水予測)」
 - － DNAチップサンプル出荷開始

業務構造変革

- 業務の構造化・可視化
- 集中・融合(地理、機能)
- スタッフ生産性向上と本社機能集約
 - － 本社移転
- 首都圏営業機能統合
 - － 品川事業所
- 人的リソース集合による研究・商品開発・エンジニアリング機能の連携・強化
 - － 藤沢新棟建設着手
- 生産再編(技術・製品別、機能別生産体制への転換)
 - － 国内拠点付加価値向上、中国生産体制拡充